

1～2月どりレタスの有望品種と地帯別、被覆法別定植適期の推定

レタス1～2月どりでは、低温肥大性が優れる品種「フルバック」が有望で、各地域の平年値から定植適期が設定できる

背景・目的

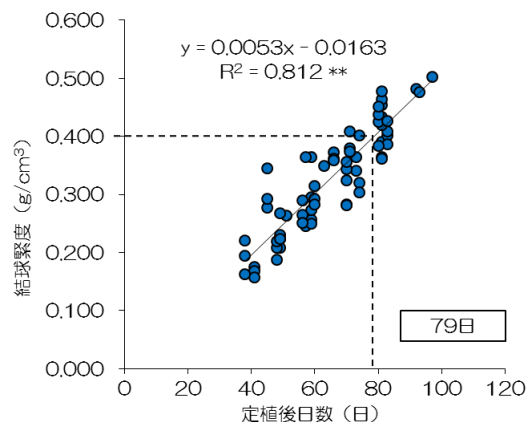
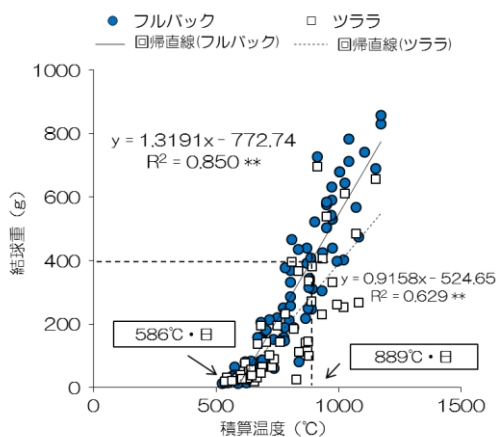
- ・1～2月どりレタスは、これまで球肥大促進のためPOフィルムによるトンネル栽培が中心で、温度管理が必要
- ・本県の温暖な気候と地球温暖化の進展により温度管理が不要な不織布被覆や無被覆栽培の可能性が高まる
- ・産地からは低温肥大性の優れる品種への強い要望

成果の内容

レタスの出荷目安は結球重400g以上、結球緊度0.4g/cm³未満

○「フルバック」の特徴

- ・慣行品種「ツララ」に比べて低温肥大性が優れる
- ・定植後の積算温度約890℃・日で結球重は400gに到達
- ・定植後約80日以上では、硬く締まりすぎ(結球緊度0.4g/cm³以上)で出荷に不適



各地域の平年値からPO被覆、不織布被覆、無被覆栽培に適する定植期を設定可能

導入
メリ
ット

低温肥大性が優れる品種
「フルバック」の導入による安定生産

地帯別定植適期の設定により不織布
被覆、無被覆栽培による省力低コスト
化が可能

○指宿地域の定植適期

PO被覆 : 10/30～11/30
不織布被覆 : 10/30～11/20
無被覆 : 10/30～11/10

○熊毛地域の定植適期

熊毛地域では無被覆栽培が可能
無被覆 : 11/10～12/10

期待される効果

1～2月どりレタスの生産安定と省力低コスト化

普及対象・範囲
県内レタス生産者